

学校評価（関係者）報告書

（2022.3.28 13 時 30 分～）

参加者：動物病院院長、動物関係会社社長、卒業生代表、高等学校校長
校長・副校長・事務長・教務主任・法人本部職員 他

1.2021 年度 学生状況及び授業環境について

- ・就職意欲がない学生も含まれるが、就職意欲のある学生の就職率は 100%を目指す。有効求人倍率も 300%程度である。
今後生体販売禁止の方向性の中、美容関係は今後も盛り上がりが予測されるが、飼育、販売関連業界の求人は下降傾向が予測される、その中で、より専門的で実践的な教育の元、専門家な教育を行わなければ、現状の就職率を維持していくことは困難となると予想される。
- ・レントゲンの導入予定はないか。動物病院等医療現場では日常的に使用されている。他校導入している学校もあり、即戦力の動物看護師としては必要な知識、スキルとなり得る、検討の余地があるのではないか。（検討課題とする）
- ・コース毎の専門的技術・知識を高めることは非常に重要であるが、動物業界の現場としては、専門技術のみならず一般的な接客姿勢、技術も必要であり、販売マネジメントについても理解しておかないと、即戦力とはいえない。専門的技術のみならず社会的スキルを磨く授業も取り入れる必要もある。様々な分野の専門家に講師として授業してもらい、展示会への参加も授業に中に取り込んでいく。

2.2022 年度 入学予定者について

- ・過去最高の入学者数になる見込みである。愛玩動物看護師国家資格化の影響も考えられる。
- ・2023 年度より、2 年課程廃止し 3 年課程のみとなるが、希望者全員が 3 年課程に移行するとは考えにくい。学生募集に対し対策が必要となる。

3.自己評価より（自己点検、保護者アンケート等について）

- ・それぞれのアンケート結果平均は、概ね 4 以上と良い評価となっている。
- ・G R コースに 3 点台の評価項目が見受けられるが、きめ細かな分かりやすい説明が求められる。常勤、非常勤協働し課題改善（共通目標）にむけ取り組む必要がある。学生の目指すもの、抱えている課題はケースバイケースであるため、各人が情報共有し、一丸となり取り組むことが必要になる。更に、各職員がスキルアップに努め今以上に高い目標を持ち教育に当たる姿勢が求められる。

- ・本高等学校では、スクールカウンセラーに2週間に1度来校してもらっている。生徒・保護者・教職員対象で完全予約制。現在は予約で一杯の状況である。保護者からの相談の割合も増加してきている。スクールカウンセラーとの面談後、本人等の了承を得て教員、養護教諭とカウンセラーの連携を図り、早期対応を心掛けている。
- ・具体的な相談窓口がないことが、学生の評価等コース評価に影響を及ぼしている可能性もある、現在社会の状況・学生状況を鑑み新規配置も検討する必要があるのではないかな。
- ・保護者アンケートについても、概ね良い評価を得ているが、「学校よりの連絡報告」の評価が低い傾向にある。学生を通しての情報伝達に問題が生じている可能性がある。保護者への連絡報告手段を複数確保し、キメ細やかな情報伝達に努めなければならない。学生からの情報のみで評価されることなく、学校側、学生側双方の情報が正しく伝わり、判断してもらえる状況の確保が求められる。次年度に向け、保護者への情報伝達に関し改善していくことが必要である。
具体的には、HP等使用し広く情報の公開を行う。入学後の保護者と学校の接点の確保にも保護者会やオープンスクール等を活用し努めていく。

5.2022 年度目標

- ・各アンケート結果を総合的に見てみれば、良い評価となっている。
- ・保護者への連絡報告については、改善の余地があるため次年度の課題とする。
- ・学生への指導をはじめ、教職員の対応についてキメ細かな説明を心掛け、情報伝達について、相手の立場に立った説明に配慮することが必要である。
- ・県に申請書を提出し、愛玩動物看護師養成所指定をとり、愛玩動物看護師養成所として学生募集（看護コース 50 名定員）を行うことを目標とする必要がある。
- ・各種専門的知識のみならず、接客スキル、ビジネススキル等の社会経済活動現場で必要とされる知識、技術を身に付けられるよう工夫し、社会に有能で即戦力となれる人材の育成を目指すことが求められるため、柔軟に授業内容、方法等を創意工夫していくことが検討課題である。
- ・学生の望む目標に対する相談、抱えている課題等、教職員が親身となり寄り添う形で指導していくことが肝要であるが、必要に応じてスクールカウンセラーの配置等も検討し、学生個々に対応していく組織力が必要となる。